

1.11 大学図書館の国際活動とその戦略

九州大学附属図書館利用支援課長

甲斐 重武

1. はじめに

大学の教育・研究・社会貢献活動の国際化が進むなかで、大学活動を支援する図書館においても国際化が強く求められている。1990年代半ば以降の10年間は、インターネットを活用した研究活動のグローバル化に呼応して、学術情報の国際流通の促進を図るために大学図書館の国際協力が大きく進展した時期であった。グローバル ILL フレームワーク(Global ILL Framework : GIF)、日米 ILL/DD プロジェクト、日韓 ILL/DD プロジェクト等を通して、国際的な協力体制が整ってきている。

大学の教育活動や社会貢献活動の国際化についても、海外大学との交流協定が最近5年間で倍増するほど活発化し、そのための図書館間の協力も必要になっている。海外の大学と交流協定を締結している大学図書館においては、大学間の交流協定に基づく一般的な業務協力に加えて、場合によっては双方の図書館で固有の蔵書等を取り交わし、出版物・資料・電子情報の交換や特定の業務テーマをもった職員交流・研究会・プロジェクト等を実施することも有効である。

2. 最近10年間の図書館協力の国際化

1) グローバル ILL フレームワーク(Global ILL Framework : GIF)

「ネットワーク環境において資源共有の理念を地球規模で実現しようという枠組み」

「グローバルな ILL/DD を実現しようとする仕組み」

1990年代半ば以降の日米文化教育交流会議(CULCON)等の協議を具現

GIF の構成

・ISO ILL プロトコルに基づく書誌ユーティリティ間の ILL システムリンク

・NACSIS-ILL という単一のインターフェース

・料金決済システムの確立

運用の課題

・資料所蔵の確認

・依頼方法、受付方法

・複写物、資料現物の送付方法

・料金決済

・著作権問題: 各国の著作権法に準じた取り扱い

・レンディングポリシーの参照

2) 日米 ILL/DD プロジェクト

NII-OCLC ILL システム間リンクに基づく国際 ILL/DD

文献複写サービス(2002.4-)

参加機関: 日本: 94 機関 104 図書館、北米: 45 機関 48 図書館 (2005 年 4 月 25 日現在)

依頼受付状況 = 2 (日本からの依頼) : 1 (北米からの依頼)

現物貸借サービス(2003.8-)

参加機関: 日本: 45 機関 47 図書館、北米: 25 機関 25 図書館 (2005 年 4 月 25 日現在)

運用上の課題

3) 日韓 ILL/DD プロジェクト

NII-KERIS ILL システム間リンクに基づく国際 ILL/DD

2002.12 NII-KERIS システムリンク計画の合意

2004.8 - 運用テスト: 日本 4 大学(東京・三重・京都・九州)、韓国 5 大学校(ソウル国立、延世、梨花女子、西江、浦項工科)及び KERIS(韓国教育學術情報院)

2004.11- 暫定サービス: システム間リンクは実装せず Agent を介して運用。

NII の文献複写料金相殺サービスによる。

参加機関: 日本: 66 機関 83 図書館、韓国: 226 図書館 (2005 年 4 月 25 日現在)

2005.10- 正式サービス(予定)

3 . 大学の国際交流の進展

1) "大学等間交流協定締結状況等調査(平成 16 年 10 月 1 日現在)"

2) 海外大学との交流協定

5 年間で倍増 : 6,317 件(2000 年) 11,292 件(2004 年) : 1 大学複数件を含む。

学生交流: 9,813 件 (単位互換: 3,331 件)

学術交流 (教員・研究者の交流) : 9,439 件

3) 米国がトップ、中国・韓国が急迫

米国 : 18.6 % 、中国 : 18.2 % 、韓国 : 10.2 %

4 . 九州大学及び九州大学附属図書館における国際交流

1) 大学間の交流協定

学術交流協定 : 13 国 53 大学。中国 : 15、韓国 : 8、ドイツ: 6、米国・英国: 5

学生交流協定 : 14 国 67 大学。米国: 12、韓国・仏国 : 11、中国 : 10、英国: 6

アジア重視戦略

2) 図書館間交流協定

ソウル国立大学校中央図書館（大韓民国）

1999年3月

2001年8月 大学間の学術交流協定に発展的吸収

慶北大学校中央図書館

2002年7月

2003年12月 大学間の学術交流協定に発展的吸収

国立台湾大学図書館

2003年10月

3) ソウル国立大学校中央図書館との交流

資料交換：学術刊行物、大学出版会等

「九州とソウル国立大学校の図書館業務交流に関する覚書」（2004年5月）

- ・大学間の学術交流協定の規程を拠る。
- ・「図書館相互協力および交流を維持し、発展させることに努力する。」

国際セミナー共催(2004年5月20日 九州大学附属図書館筑紫分館)

- ・テーマ：電子図書館、ICタグ・自動書庫、日韓 ILL/DD プロジェクト
- ・発表者：ソウル国立大学校中央図書館、九州大学附属図書館、国立情報学研究所
- ・参加者：国公立大学図書館・民間企業等約 60 名。テレビ会議参加：東大、NII
- ・広 報：地元テレビ局でのニュース放映

4) ソウル国立大学校図書館員の研修受入

半年間の職員研修の受け入れ

大学全体の合意形成

- ・海外大学との職員派遣研修の規則は検討・作成中。国内企業との間の職員派遣研修を参考
- ・大学事務局の総務・人事・国際交流関係部署と調整、国際交流に係る学内審議組織で

承認

「確認書」

- ・前提：「図書館業務交流に関する覚書」（平成 16 年 5 月 19 日）の意義に則る
- ・目的：図書館資料の保存と管理、図書館協力、分担収集に関する専門的知識の習得、日本語能力の向上
- ・期間：2005年2月下旬～2005年8月下旬（韓国の学期）
- ・身分、勤務時間、研修体制、出張手続き、給与、服务等を規定
- ・災害と保険：研修中の災害補償を規定し、一般的な保険（日本において効力を有する

総合医療保険・旅行者保険等)の加入を規定。

- ・その他、研修設備・宿舎について配慮

実施

- ・宿舎：大学の海外研究者・留学生用宿舎は数年先まで満室。民間ボランティア施設活用。
- ・研究環境：電子メール、多言語対応パソコン等
- ・日本語研修：留学生用日本語研修プログラム受講。週末：民間ボランティアの日本語研修。
- ・主題研修：文献調査、関係機関訪問調査、関係研修受講、館内研修発表、報告書作成。

5) ソウル国立大学校等への職員派遣(2005年2月)

大学後援会職員派遣事業への計画申請・採択。大学間交流の発展に資する。

韓国ソウル市内の大学間交流協定(学術・学生)の4大学校(ソウル国立、延西、梨花女子、西江)図書館訪問。

実務担当者レベルでの日韓 ILL/DD の運用、著作権等に係る協議。各半日～1日。

6) 地域的図書館協力の国際交流

5. おわりに

大学に附属する図書館として、大学の国際活動を支援するためには、図書館は海外の大学図書館と実質的な協力関係を構築することが重要になっている。アジア、とりわけ近隣諸国である韓国や中国等の大学との交流に重点を移しているわが国の大学にあって、附属図書館は、韓国や中国等の大学図書館と、より具体的な業務交流を実施していくことが必要になってきている。アジア重視という大学のミッションに整合させながら図書館の国際活動の戦略をたてることが肝要である。

【参考】

- ・早瀬均"国際化時代における図書館協力" 平成 16 年度大学図書館職員長期研修講義要綱, 2004 pp.104-107 (http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2004/youkou/4_3.pdf)
- ・文部科学省"大学等間交流協定締結状況等調査(平成 16 年 10 月 1 日現在)" 2005 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/teiketsu/main6_a9.htm